

財団法人 日本習字教育財団 寄附行為〔抜粋〕

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本財団は、財団法人日本習字教育財団と称する。

(事務所)

第2条 本財団は、主たる事務所を東京都千代田区九段北4丁目2番11号に置き、従たる事務所を京都市左京区岡崎南御所町35番地及び福岡市中央区警固1丁目12番11号に置く。

第2章 目的及び事業

(目 的)

第3条 本財団は、原田観峰師の提唱に係る「正しい美しい愛の習字」を基本理念とし、書道文化、書道教育の振興を図るとともに書道を通じた国際交流を促進し、もって文化の向上発展に寄与することを目的とする。

(事 業)

第4条 本財団は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 一 書道文化に関する調査研究
- 二 書道文化に関する講演会の開催
- 三 書道に関する展覧会の開催
- 四 世界各国の文字資料その他文化資料の収集及びその展示公開
- 五 教育・文化施設の運営
- 六 機関誌その他の出版物の発行
- 七 書道を中心とした国際交流
- 八 書道の通信教育及び実習指導
- 九 その他目的を達成するために必要な事業

役員名簿

役 職	氏 名	国家公務員 出身者最終官職
理事長 (常勤)	甲地 史昌	
副理事長	加藤 達夫	
常務理事	野中 茂	
常務理事 (常勤)	田中 康司	
常務理事 (常勤)	山野 俊朗	
常務理事 (常勤)	葛西 孝章	
理 事	渡邊 富美雄	
理 事	宮城 嘉守	
理 事	白井 淳二	
理 事	中井 滋	
理 事	只野 覚	
理 事	原田 博至	
監 事	亀田 壽	
監 事	大江 裕之	

平成20年度
(2008年度)

事業報告書

自 平成20年4月 1日
至 平成21年3月31日

財団法人日本習字教育財団

一. 書道文化に関する調査研究

(1) 収蔵資料に関する調査研究

収蔵資料の中から、中国書画や日本の文字資料などについて調査研究を行った。

- ア. 近代中国書画に関する共同調査
- イ. 中国書画と和本に関する調査研究
- ウ. 収蔵資料管理データベースシステムの構築
- エ. 収蔵資料の修復
- オ. 調査研究結果の公表

(2) 書の効用に関する調査研究

平成19年度の研究成果物として提出された「誌上シンポジウム 現代社会の中の『書』と未来」(A5版112頁)を、機関紙「日本習字だより」(平成20年8月号)を通じて希望者を募り、108冊を配布した。

また、機関紙「日本習字だより」(平成20年度2月号)を通じて『書の効用に関する懸賞論文』(応募締め切り6月1日)を募集した。

二. 書道文化に関する講演会の開催

「日本習字文化講演会」を4都市で開催した。講師にはNHKアナウンサー梅津正樹氏を迎え、題目「それってホントに正しいことば? (敬語増強版)」を公募による参加者に向けて講演した。応募者多数につき参加者を抽選により決定した。

開催地	開催日	会場	参加者
名古屋市	9月7日	愛知芸術文化センターアートスペースA	239人
熊本市	9月28日	熊本市総合体育館・青年会館ホール	370人
青森市	10月12日	青森市男女共同参画プラザAV多機能ホール	252人
松山市	10月26日	愛媛県女性総合センター多目的ホール	259人

三. 書道に関する展覧会の開催

1. 書道展覧会の開催

(1) 第5回観梅展の開催

当財団受講者を対象に自己研鑽の場として作品を募集し、地区展において優秀作品を展示発表した。

- ア. 募集方法 本展開催告知を当財団機関紙および当財団ホームページで行なうとともに、受講者に募集要項を配布し、出品の

向上に努めた。

- イ. 公募期間 平成20年8月1日～9月25日
ウ. 応募総数 3,907点
エ. 審査 観梅展審査委員会
オ. 審査結果

賞の名称	点数
観梅大賞	41点
審査委員会特別賞	7点
観梅賞	325点
清風賞	5点
秀作賞	897点
特選	1,686点
準特選	746点
優秀賞	188点
計	3,895点

*無鑑査2点・・・観梅大賞を3回受賞した方を無鑑査として展示を行った。

- カ. 地区展覧会 9会場で実施した。

開催日	展名	会場(開催地)	展示点数	入場者数
1月14～ 30日	沖縄展	沖縄書道会館ギャラリー(沖縄市)	91点	392人
2月1日	名古屋展	名古屋市中企業振興会館 (名古屋市)	247点	340人
2月8日	仙台展	仙台国際センター(仙台市)	247点	322人
2月15日	広島展	広島産業会館(広島市)	347点	520人
3月1日	福岡展	福岡国際センター(福岡市)	1,198点	1,508人
3月8日	東京展	KFC HALL(墨田区)	575点	806人
3月15日	京都展	みやこめっせ(京都市)	432点	1,150人
3月28～ 29日	鹿児島展	黎明館(鹿児島市)	175点	595人
(4月5日)	札幌展	札幌市民ギャラリー(札幌市)	192点	320人
	計		3,504点	5,953人

(2) 第2回公募日本習字硬筆展の開催

日常の生活で最も身近な筆記用具である硬筆を用いて、「正しく美しい文字を丁寧に書く」ことの大切さ、楽しさを再認識することを目的に、硬筆作品を公募し、優秀作品を紙上発表した。(紙上展)

- ア. 募集方法 本展の開催募集告知を当財団ホームページほか、以下の媒体で行なうとともに、書塾及び書道関係者、書道愛好家に文書を送付し、出品の向上に努めた。

告知日 (掲載日)	媒体	仕様	備考
8月1日	朝日小学生新聞・カラー	全5段	上段10段は取材記事
8月1日	書道美術新聞	全3段	
8月1日	朝日新聞東京版夕刊	情報コーナー	
8月2日	朝日新聞大阪版朝刊	情報コーナー	

8月2日	朝日新聞大阪版夕刊	情報コーナー	
夏休み前配布	夏休み向けコンクール案内	プリント	朝日小学生新聞で作成 全国の小中学校に配布 学校より家庭に配布

- イ. 後援 文化庁、福岡県、朝日小学生新聞、都道府県教育長協議会、
全国連合小学校長会、全国中学校長会、全国高等学校長協会、
報道機関各社 75 社
- ウ. 協賛 アピカ(株)、セーラー万年筆(株)、(株)トンボ鉛筆、ナカバヤシ(株)、
(株)パイロットコーポレーション
- エ. 公募期間 8月1日～9月25日
- オ. 応募総数 45,706点
- カ. 審査 日本習字硬筆展審査委員会(委員長・渡邊 富美雄)
- キ. 審査結果

開催日	点数
大賞	12点
全国都道府県教育長協議会賞	4点
全国高等学校長協会賞	3点
全日本中学校長会賞	3点
全国連合小学校長会長賞	6点
朝日小学生新聞賞	6点
理事長賞	2点
協賛企業賞(5社)	15点
財団法人日本習字教育財団特別賞	138点
報道関係賞	242点
日本習字賞	218点
寿大賞	5点
寿賞	9点
秀作賞	5,713点
特選	18,580点
入選	20,750点
合計	45,706点
団体優秀賞	59団体
団体奨励賞	130団体

- ク. 結果発表
- (ア)朝日小学生新聞(1月18日付)紙上で、小学生を中心に特別賞受賞作品・受賞者名簿を掲載発表した。
- (イ)当財団ホームページ、機関紙2月号、広報誌に特別賞受賞作品・受賞者名簿を掲載発表した。

2. 席書大会の開催

- (1) 第9回日本習字全国席書大会の開催

- ア. 開催日・開催地・参加者数

開催日	大会名	会場(開催地)	参加者数
-----	-----	---------	------

中国書画及び和本に関する企画展示を行った。

名称	会期	展示室
春の企画展示「中国書画にみる初夏のはなやぎ」展	4月2日～6月29日	展示室1
企画展示「江戸の女子力」展	4月2日～8月31日	4階展示室
企画展示「対聯 <small>ついでん</small> の書の楽しみ」展	9月2日～11月30日	展示室1・3階展示室
企画展示「近世の手習い本展」	9月2日～11月30日	4階展示室
地域共催企画「商家に伝わるひな人形めぐり」展	3月1日～31日	展示室1
淡海書道文化専門学校卒業記念作品展	3月8日～(4月8日)	別館展示室3

五. 教育・文化施設の運営

1. 観峰館

- (1) 収蔵資料の分類整理・調査研究及び展示公開を行った。
- (2) 書道文化に関する体験学習教室を行った。
- (3) 各種団体・学校・グループ来館者に、学芸員による展示資料の解説を行った。
- (4) 学校教育機関との連携による学習プログラムを実施した。
- (5) 博物館学芸員実習生の受け入れを実施した。
- (6) 書道作品展のために、展示室の貸出しを実施した。
- (7) 観峰館の展覧会と関連するイベントを開催した。
- (8) 観峰館ホームページの開設 URL <http://kampokan.com>

2. 沖縄書道会館

各種団体の催事に対して、同館のギャラリーを貸与した。

六. 機関誌その他の出版物の発行

- (1) 広報誌「水茎^{みずくき}」を発行した。
- (2) 「観峰館紀要第4号」(B5版62ページ)を発行した。500部発行(10月)。
- (3) 幼児向け硬筆教材「はじめてのひらがな」「だいすき!ひらがな」を発行した。
- (4) 児童に対する漢字学習教材として日本習字漢字学習シリーズ①「1年生の漢字練習」(以下2年生～6年生)を発行した。

七. 書道を中心とした国際交流

国際文化交流「筆の会」による、ロシア国ハバロフスクにおける国際交流活動(在ハバロフスク日本総領事館、学校等で書道講習、作品の展示)が、10月6日～13日に亘って行われ、これに対し財団発行書籍等を進呈して支援した。

八. 書道の通信教育及び実習指導

1. 通信教育

- (1) コース

No.	通信教育の名称	期間
1	書写技能基礎講座 [楷書編] (文部科学省認定)	6か月
2	書写技能基礎講座 [行書編] (文部科学省認定)	6か月
3	書道臨書講座【楷書Ⅰ】(文部科学省認定)	5か月
4	書道臨書講座【楷書Ⅱ】(文部科学省認定)	4～12か月
5	書道臨書講座【隷書】	3～6か月
6	日本習字入門講座 [漢字部]	3か月
7	日本習字漢字部	1か年
8	日本習字かな部	1か年
9	日本習字ペン部	1か年
10	実用書道くらしの書	1か年
11	日本習字墨画部	1か年
12	日本習字臨書部	1か年
13	日本習字幼児部	1か年
14	日本習字小学1年	1か年
15	日本習字小学2年	1か年
16	日本習字小学3年	1か年
17	日本習字小学4年	1か年
18	日本習字小学5年	1か年
19	日本習字小学6年	1か年
20	日本習字中学1年	1か年
21	日本習字中学2・3年	1か年

2. 実習指導

伊都の里研修所、淡海研修所をはじめとする当財団研修施設及び全国各地において実習指導を行った。

3. 公教育現場における書写書道指導者紹介事業の運用

当該事業に関する告知は、当財団ホームページ上において、その趣旨と活動を紹介すると共に、指導者派遣のための検索システムを展開して事業の促進を図った。

九. その他目的を達成するために必要な事業

(1) 福岡矯正管区文芸コンクールをはじめ各種団体等が実施する書道展覧会等に対し、後援、審査等の支援を行った。

(2) 受講者に対する用具、図書の斡旋を行った。

(3) 日本習字みらい創生委員会の検討結果を理事会に報告し、受講生拡大、教材の充実等に向け次年度計画に反映した(6月)。

(4) 原田観峰生誕100年記念事業の企画立案のために、指導者を中心に「原田観峰先生 生誕100周年記念事業に伴うアンケート」を実施した。

貸借対照表

平成21年3月31日現在

(単位：千円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1. 流動資産	2,062,362	2,062,362
2. 固定資産		
基 本 財 産	5,113,380	
特 定 資 産	3,037,000	
そ の 他 固 定 資 産	2,282,524	10,432,904
資 産 合 計		12,495,266
II 負債の部		
1. 流動負債	1,576,541	1,576,541
2. 固定負債	353,339	353,339
負 債 合 計		1,929,880
III 正味財産の部		
1. 指定正味財産	1,000,000	1,000,000
(うち基本財産への充当額)	(1,000,000)	
(うち特定資産への充当額)	(0)	
2. 一般正味財産	9,565,386	9,565,386
(うち基本財産への充当額)	(4,113,380)	
(うち特定資産への充当額)	(2,730,000)	
正 味 財 産 合 計		10,565,386
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計		12,495,266

正味財産増減計算書

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	金 額		
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	13,384		
② 特定資産運用益	16,321		
③ 事業収益	2,802,683		
④ 受取寄付金	0		
⑤ 雑収益	4,283		
経常収益計		2,836,671	
(2) 経常費用			
① 事業費	2,393,624		
② 管理費	163,867		
経常費用計		2,557,491	
当期経常増減額			279,180
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
① 固定資産売却益	769		
② その他の経常外収益	70,000		
経常外収益計		70,769	
(2) 経常外費用			
① 固定資産除却損	12,663		
経常外費用計		12,663	
当期経常外増減額			58,106
税引前当期一般正味財産増減額			337,286
法人税、住民税及び事業税			112,000
法人税等調整額			16,604
当期一般正味財産増減額			208,682
一般正味財産期首残高			9,356,704
一般正味財産期末残高			9,565,386
II 指定正味財産増減の部			
① 基本財産運用益	9,354		
② 一般正味財産への振替額	△ 9,354		
当期指定正味財産増減額		0	0
指定正味財産期首残高			1,000,000
指定正味財産期末残高			1,000,000
III 正味財産期末残高			10,565,386

財 産 目 録

平成21年3月31日現在

(単位：千円)

科 目	金 額	金 額	金 額
[資産の部]			
I 流動資産			
1. 現金預金	1,800,476		
2. 未収金	140,377		
3. 未収収益	114		
4. 前払費用	18,244		
5. 貯蔵品	56,621		
6. 繰延税金資産	46,530		
流動資産合計		2,062,362	
II 固定資産			
〔1〕基本財産			
1. 預金	200,612		
2. 投資有価証券	799,388		
3. 減価償却引当資産	560,105		
4. 土地	766,970		
5. 建物	872,935		
6. 展示資料	1,913,370		
基本財産合計	5,113,380		
〔2〕特定資産			
1. 退職給付引当資産	307,000		
2. 法人運営引当資産	2,050,000		
3. 教材改定引当資産	250,000		
4. 施設設備改修引当資産	430,000		
特定資産合計	3,037,000		
〔3〕その他固定資産			
1. 土 地	889,808		
2. 建 物	393,563		
3. 建物附属設備	64,162		
4. 構 築 物	66,240		
5. 車両運搬具	3,020		
6. 什器備品	92,706		
7. ソフトウェア	11,883		
8. 展示資料	582,399		
9. 電話加入権	5,442		
10. 敷金・保証金	55,111		
11. 預託金	47		
12. 供託金	12,100		
13. 繰延税金資産	106,043		
その他固定資産合計	2,282,524		
固定資産合計		10,432,904	
資産合計			12,495,266
[負債の部]			
I 流動負債			
1. 未払金	113,959		
2. 未払消費税等	8,309		
3. 未払法人税等	115,148		
4. 前受金	1,173,547		
5. 預り金	105,180		
6. 賞与引当金	60,398		
流動負債合計		1,576,541	
II 固定負債			
1. 預り保証金	1,524		
2. 退職給付引当金	329,791		
3. 役員退職慰労引当金	22,024		
固定負債合計		353,339	
負債合計			1,929,880
正味財産			10,565,386

キャッシュ・フロー計算書

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	金額
I 事業活動によるキャッシュ・フロー	
1. 当期一般正味財産増減額	208,682
2. キャッシュ・フローへの調整額	
① 減価償却費	108,921
② 退職給付引当金の増減額	6,320
③ 役員退職慰労引当金の増減額	△73,562
④ 賞与引当金の増減額	3,484
⑤ 未収金の増減額	△1,819
⑥ 未収収益の増減額	△114
⑦ 貯蔵品の増減額	3,111
⑧ 未払金の増減額	△5,610
⑨ 未払消費税等の増減額	1,184
⑩ 預り金の増減額	15,885
⑪ 前受金の増減額	29,573
⑫ その他資産負債の増減額	△1,528
⑬ 固定資産除却益	△770
⑭ 固定資産除却損	12,663
⑮ 立ち退き料受領額	△70,000
⑯ 指定正味財産からの振替額	△9,354
3. 法人税等の支払額	△23,244
小 計	△4,860
4. 指定正味財産増加収入	
① 基本財産運用収入	9,354
指定正味財産増加収入計	9,354
事業活動によるキャッシュ・フロー	213,176
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
1. 投資活動収入	
① 基本財産取崩収入	29,901
② 特定資産取崩収入	72,000
③ 固定資産売却収入	770
④ 敷金・保証金戻り収入	25,652
⑤ その他の投資活動収入	70,011
投資活動収入計	198,334
2. 投資活動支出	
① 基本財産取得支出	67,820
② 特定資産取得支出	300,000
③ 固定資産取得支出	39,591
④ 敷金・保証金支出	23,751
⑤ 供託金・預託金支出	812
投資活動支出計	431,974
投資活動によるキャッシュ・フロー	△233,640
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
1. 財務活動収入	0
財務活動収入計	0
2. 財務活動支出	0
財務活動支出計	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	0
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	0
V 現金及び現金同等物の増減額	△20,464
VI 現金及び現金同等物の期首残高	1,820,940
VII 現金及び現金同等物の期末残高	1,800,476

(注) 1. 資金の範囲 資金の範囲には現金及び現金同等物を含めている。

収 支 計 算 書

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	予算額	決算額	差異	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
① 基本財産運用収入	13,000	13,384	△ 384	
② 特定資産運用収入	16,000	16,321	△ 321	
③ 事業収入	2,755,500	2,802,683	△ 47,183	
④ 寄付金収入	100	0	100	
⑤ 雑収入	3,400	4,283	△ 883	
事業活動収入計	2,788,000	2,836,671	△ 48,671	
2. 事業活動支出				
① 事業費支出	2,394,200	2,274,044	120,156	
② 管理費支出	262,700	235,174	27,526	
③ 法人税、住民税及び事業税支出	150,000	112,000	38,000	
事業活動支出計	2,806,900	2,621,218	185,682	
事業活動収支差額	△ 18,900	215,453	△ 234,353	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
① 基本財産取崩収入	30,000	29,902	98	
② 特定資産取崩収入	72,000	72,000	0	
③ 固定資産売却収入	0	769	△ 769	
④ 敷金・保証金戻収入	24,900	25,651	△ 751	
⑤ 受取立退き料収入	0	70,000	△ 70,000	
⑥ その他投資収入	0	12	△ 12	
投資活動収入計	126,900	198,334	△ 71,434	
2. 投資活動支出				
① 基本財産取得支出	68,000	67,820	180	
② 特定資産取得支出	300,000	300,000	0	
③ 固定資産取得支出	45,900	39,591	6,309	
④ 敷金・保証金支出	25,000	23,751	1,249	
⑤ その他投資支出	500	811	△ 311	
投資活動支出計	439,400	431,973	7,427	
投資活動収支差額	△ 312,500	△ 233,639	△ 78,861	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入	0	0	0	
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出	0	0	0	
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出	50,000	—	50,000	
当期収支差額	△ 381,400	△ 18,186	△ 363,214	
前期繰越収支差額	461,255	461,255	0	
次期繰越収支差額	79,855	443,069	△ 363,214	

【収支計算書に対する注記】

- 収支計算書は「公益法人会計における内部管理事項について」（平成17年3月23日公益法人等の指導監督等に関する関係省庁連絡会議幹事会申合せ）に示された3区分の様式により作成している。

平成21年度
(2009年度)

事業計画書

自 平成21年4月 1日
至 平成22年3月31日

財団法人日本習字教育財団

一. 書道文化に関する調査研究

(1) 収蔵資料に関する調査研究

収蔵資料の中から中国書画をはじめ、日本や世界の文字資料など文化教育に関する資料を分類整理し調査研究を行う。

(2) 書の効用に関する調査研究

広報誌・機関紙等において募集する「書の効用に関する懸賞論文」の中から、特に書の効用を多角的な面から考察した、優れた論文を選抜しその内容を発表する。

二. 書道文化に関する講演会の開催

「日本習字文化講演会」を東京・大阪の大都市圏と、沖縄県那覇市の3ヶ所において開催する。有識者による国語や書道文化に関する講演は広く一般の関心も高く、地域社会への文化的貢献を視野に入れて運営実施する。

三. 書道に関する展覧会の開催

1. 書道展の開催

(1) 第20回公募日本習字展の開催

- ア. 公募期間 8月1日～9月25日
- イ. 出品料 幼児、小学生、中学生、高校生の部 500円
一般の部 1,000円
- ウ. 募集点数 83,000点
- エ. 審査 日本習字展審査委員会
- オ. 地区展覧会 3会場

地区展覧会	開催日平成22年	会場(開催地)
福岡展	2月28日	福岡国際センター(福岡市)
東京展	3月7日	KFC HALL(東京都)
京都展	3月14日	みやこめっせ(京都市)

2. 席書大会の開催

(1) 第10回日本習字全国席書大会

- ア. 開催日・会場 7会場

大会名	開催日平成22年	会場(開催地)
福岡大会	1月6日	九電記念体育館(福岡市)
東京大会	1月9日	EBIS 303(東京都)
神戸大会	1月10日	神戸国際展示場(神戸市)
沖縄大会	1月11日	沖縄県総合運動公園内(沖縄市)
札幌大会	1月16日	札幌中央体育館(札幌市)
名古屋大会	1月17日	名古屋国際会議場(名古屋市)
郡山大会	1月23日	郡山カルチャーパーク(郡山市)

(2) 第14回観峰館かきぞめ大会

- ア. 開催日 平成22年1月9日
イ. 展示 平成22年1月10日～11日

四. 世界各国の文字資料その他文化資料の収集及びその展示公開

(1) 常設展示 (主な展示内容)

- ア. 近代中国の書画、中国の文字資料、復元石碑
イ. 世界の文字資料、日本の教科書、西洋アンティーク
ウ. 「避暑山荘」・「三希堂」の復元展示
エ. 原田観峰の書作品

(2) テーマ企画展

名称	会期	内容
企画展示「福寿吉祥展 中国的幸福のシンボル」	4月4日～ 6月28日	人々の幸せを願う気持ちが随所に込められた中国の書画を紹介する。
企画展示「画の中の動物たち展」	7月3日～ 8月30日	中国絵画に登場する動物画を紹介する。
企画展示「楊岷と隸書の達人展」	9月4日～ 11月29日	清代後期の書家 楊岷と同時代の隸書作品を紹介する。
五個荘地区共催展「商家に伝わるひな人形めぐり」	3月2日～ 3月31日	ひな人形と中国書画の展示。

五. 教育・文化施設の運営

博物館観峰館の運営並びに各種体験学習教室、博物館イベントを開催する。

(1) 概要

- ア. 開館日 4月1日～11月30日、平成22年3月1日～31日
イ. 休館日 毎週月曜日 (祝日の場合は翌日)
冬期休館 (12月1日～平成22年2月28日)
ウ. 開館日数 236日
エ. 開館時間 午前9時30分～午後5時 (入館は4時まで)
オ. 入館料 一般500円、高校・大学生400円、
小・中学生300円 (20名以上の団体は2割引)
カ. 入館無料日 5月 5日 こどもの日
5月18日 国際博物館の日
9月21日 敬老の日

10月1日 開館記念の日

11月14日・15日 関西文化の日

(主催：関西広域連携協議会、関西元気文化圏推進協議会)

(2) 書道に関する体験学習教室の設置

(3) 各種イベントの開催

六. 機関誌その他の出版物の発行

(1) 広報誌「水茎」の発行

(2) 「観峰館紀要 第5号」の発行

(3) ホームページの更新

(4) 当財団ロゴマークの作成

七. 書道を中心とした国際交流

(1) 収蔵資料の資料的価値を内外に喧伝し、在外研究機関とも連携して共同研究が行える環境作りのための調査を行う。

(2) 国内外において書道を通じた文化交流を支援する。

八. 書道の通信教育及び実習指導

1. 通信教育

(1) コース

No.	通信教育の名称	期 間
1	書写技能基礎講座 [楷書編] (文部科学省認定)	6か月
2	書写技能基礎講座 [行書編] (文部科学省認定)	6か月
3	書道臨書講座【楷書Ⅰ】(文部科学省認定)	5か月
4	書道臨書講座【楷書Ⅱ】(文部科学省認定)	4～12か月
5	書道臨書講座【隷書】	3～6か月
6	日本習字漢字部	12か月
7	日本習字かな部	12か月
8	日本習字ペン部	12か月
9	実用書道くらしの書	12か月
10	日本習字墨画部	12か月
11	日本習字臨書部	12か月
12	日本習字入門講座 [漢字部]	3か月
13	日本習字幼児部	12か月
14	日本習字小学1年	12か月
15	日本習字小学2年	12か月
16	日本習字小学3年	12か月
17	日本習字小学4年	12か月
18	日本習字小学5年	12か月
19	日本習字小学6年	12か月
20	日本習字中学1年	12か月
21	日本習字中学2・3年	12か月

2. 実習指導

当財団研修施設及び全国各地において実習指導を行う。

- (1) 伊都の里研修所
- (2) 淡海研修所
- (3) 東京研修所
- (4) 沖縄研修所
- (5) 各地講習会

3. 公教育現場等における書写指導者紹介事業の運用

これまで取り組んできた当該事業の現状を見直し、運用形態を一部変更して、文部科学省が推進する「学校支援地域本部事業」の〔学習支援〕や〔部活動の支援〕といった学校支援ボランティアなどへの転換を目指す。

九. その他目的を達成するために必要な事業

- (1) 福岡矯正管区文芸コンクールをはじめ各種団体等が実施する書道展覧会等に対し、後援、審査等の支援をする。
- (2) 受講者に対する用具、図書の斡旋を行う。
- (3) 原田観峰生誕100年記念事業の企画立案と準備を行う。受講者に対するアンケート調査の結果を踏まえて、更に具体的な企画を基にその準備をおこなう。

収 支 予 算 書

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
① 基本財産運用収入	13,300	13,000	300	
② 特定資産運用収入	16,100	16,000	100	
③ 事業収入	2,724,100	2,755,500	△ 31,400	
④ 寄付金収入	100	100	0	
⑤ 雑収入	700	3,400	△ 2,700	
事業活動収入計	2,754,300	2,788,000	△ 33,700	
2. 事業活動支出				
① 事業費支出	2,402,600	2,341,500	61,100	
② 管理費支出	158,000	181,000	△ 23,000	
③ 法人税、住民税及び事業税	95,000	150,000	△ 55,000	
事業活動支出計	2,655,600	2,672,500	△ 16,900	
事業活動収支差額	98,700	115,500	△ 16,800	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
① 基本財産取崩収入	0	30,000	△ 30,000	
② 特定資産取崩収入	0	0	0	
③ 敷金保証金戻収入	0	0	0	
投資活動収入計	0	30,000	△ 30,000	
2. 投資活動支出				
① 基本財産取得支出	38,000	68,000	△ 30,000	
② 特定資産取得支出	12,000	25,000	△ 13,000	
③ 固定資産取得支出	6,000	16,900	△ 10,900	
④ 敷金保証金支出	2,000	2,000	0	
⑤ その他投資支出	0	0	0	
投資活動支出計	58,000	111,900	△ 53,900	
投資活動収支差額	△ 58,000	△ 81,900	23,900	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入	0	0	0	
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出	0	0	0	
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出	50,000	50,000	0	
当期収支差額	△ 9,300	△ 16,400	7,100	
前期繰越収支差額	79,855	80,337	△ 482	
次期繰越収支差額	70,555	63,937	6,618	

(注)

1. 借入金限度額 該当なし
2. 債務負担額 該当なし

収支補正予算書

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	補正予算額	当初予算額	補正額	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
① 基本財産運用収入	13,300	13,300		
② 特定資産運用収入	16,100	16,100		
③ 事業収入	2,724,100	2,724,100		
④ 寄付金収入	100	100		
⑤ 雑収入	700	700		
事業活動収入計	2,754,300	2,754,300		
2. 事業活動支出				
① 事業費支出	2,438,600	2,402,600	36,000	
② 管理費支出	158,000	158,000		
③ 法人税、住民税及び事業税	95,000	95,000		
事業活動支出計	2,691,600	2,655,600	36,000	
事業活動収支差額	62,700	98,700	△ 36,000	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
① 基本財産取崩収入	0	0		
② 特定資産取崩収入	0	0		
③ 敷金保証金戻収入	0	0		
投資活動収入計	0	0		
2. 投資活動支出				
① 基本財産取得支出	38,000	38,000		
② 特定資産取得支出	332,000	12,000	320,000	
③ 固定資産取得支出	22,000	6,000	16,000	
④ 敷金保証金支出	2,000	2,000		
⑤ その他投資支出	0	0		
投資活動支出計	394,000	58,000	336,000	
投資活動収支差額	△ 394,000	△ 58,000	△ 336,000	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入	0	0		
財務活動収入計	0	0		
2. 財務活動支出	0	0		
財務活動支出計	0	0		
財務活動収支差額	0	0		
IV 予備費支出	50,000	50,000		
当期収支差額	△ 381,300	△ 9,300	△ 372,000	
前期繰越収支差額	443,069	79,855	363,214	
次期繰越収支差額	61,769	70,555	△ 8,786	

(注)

1. 借入金限度額 該当なし
2. 債務負担額 該当なし